1997年11月15日発行　年4回発行　第3巻第4号　通巻第11号　ISSN 1341-545X

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 3, No. 4　神奈川県立 生命の星・地球博物館　Nov., 1997

城ケ島

ー海成段丘面と隆起海食台ー

平田大二（学芸員）

三浦半島の最南端にある城ケ島は、周囲約4km、東西約1.8km、南北最長300mの小さな島です。島の中心部には、海抜高度約30mの平坦な高台が広がっています。この高台は、過去の海食台が陸化し、その後の地殻変動により現在の高さまで隆起した海成段丘面です。海食台を覆うローム層の年代から、この海食台は今から約6万年前に陸化したと考えられています。この海成段丘面は、三浦半島南部に広く分布しており、三崎面と名づけられています。一方、島の周囲には現在の隆起海食台が広がっています。この隆起海食台は、1923年の関東大震災を起こした原因となった関東地震など、南関東におきた過去の大きな地震により少しづつ隆起したものです。

このように、三浦半島南部では過去から現在まで、地盤の隆起が続いています。ある研究によれば、その隆起量は年1～0.3mmと見積もられています。この原因は、三浦半島が活動的なプレート境界域に位置していることによるものです。